

二宮町総合計画・総合戦略 町民ワークショップ

第2回 記録

平成 27 年 9 月 1 2 日（土）午前 9 半～1 2 時開催
参加者：47 人

検討内容

以下の4つのテーマについて、テーマごとにグループを作成し、検討しました。

- ①ファミリー層 子育て、教育
- ②まちの中の魅力づくり
- ③コミュニティ活動、地域内の助け合い
- ④しごと場づくり

検討結果

各グループの検討結果は以下の通りです。

【部会名】子育て・教育

資源・課題

▼小さい町でのんびりした地域性、昔からのつながりなどがあり、子育てしやすい


- ・自然があり、のんびりした地域性があるので子育てしやすい。
- ・小さい町なので、人の顔が見え、連携が取りやすい。
- ・小さい町なので、人間関係の密度が濃い。
- ・顔の見える関係性
- ・子どもがよくあいさつする。
- ・小さい子を連れていけると声をかけてもらうことが多い。
- ・お祭り（伝統行事、地域とのコミュニケーション）が盛んである。
- ・あまりグレてそうな子を見かけない。
- ・住宅を、価格的に購入しやすい。
- ・パチンコや風俗がないところがよい。
- ・目が行き届く広さの町で、地区会の人たちの優しさや古いやり方の良さがある。

▼防犯

- ・子どもを対象とした犯罪が少ない印象がある。

▼子どもを日常的に預ける施設はあるが、質が問われている

- ・待機児童解消を急ぐあまり、保育園に詰め込みすぎた結果、保育の質が下がっている。子どもが保育園に行きたがらないという話も聞く。
- ・日中、子どもを預けることができる、保育園や幼稚園がある。（よいところ）
- ・待機児童がわりと少ない。

- 
- ・保育園の力が強すぎて、保育園に不満があつて意見すると、転園すればいいと言われる。
 - ・車がないと保育園の選択肢がなくなる。

▼子どもを一時的に預ける施設が不足している

- ・子どもを一時的に預けられる施設は2か所のみで少ない。
- ・民間に子どもを預けられるところがあるが、料金が高い。
- ・気軽に子どもを預けられる施設がほしい。

▼自然があつていいが、子どもが安心して外で遊べる場所が少ない

- ・幼児、小学生、中学生が家族で車で遊びに行ける場所がない。(駐車場が少ない)
- ・子どもが集まれ、のびのびと遊べる公園が少なく、身近な地域に十分配置されていない。
- ・大小の公園(自然)がある。(よいところ)
- ・海・山・自然がある。(よいところ)
- ・小学生の雨天時の遊び場がない。
- ・近所に子どもが少なく、気軽に遊ばせられないので、子育てしにくい。
- ・山の上にあつて町民が日常的に使うことのない、吾妻山公園に、観光客向けに高級な遊具を置くのではなく、町民も使いやすいように平場に置いてほしい。

▼子育てサロンの数やボランティアなど子育て支援は比較的充実しているが、父親へのサポートなど子育て支援の質を改善してほしい

- ・母親だけでなく、父親だけでも子育てできるよう、父親の子育てサポートが必要。
- ・子育てサークルは割と充実している。
- ・人口に対して子育てサロンの数(2か所)が多い。
- ・子育てサロンは、規模が小さくて開業時間が短い。
- ・子育てサロンでは、子ども向けのお話会やわらべうた講座がある。
- ・子育てサロンで、出産後の親へのケアがされている。
- ・子育てサロンの先生の質を改善してほしい。
- ・子どもや子育てに関する様々なボランティア活動をしているグループがある。
- ・ボランティア活動に意欲がある子育て中の保護者が多い。

▼中学校までの給食など良い面があるが、小学校通学区域や校庭など課題もある

- ・小学校内に学童保育がある。
- ・小学校の学区割は、一色小は二宮中と西中に分かれてしまうので、中途半端である。
- ・小中学校まで完全給食であり、共働き家族にとっては助かる。
- ・給食の野菜に地元産を取り入れてほしい。
- ・山西小学校は通学区域が広く、40分かけて通っている。
- ・二宮小学校は校庭が狭い。
- ・一色小学校は1学年1クラスである。

▼公共施設の数に充実しているが、内容が不十分な面もある。

- ・温水プールや運動場など施設が充実している。
- ・町の中心にあるラディアンがつまらない。図書館も小さくて来にくい。

▼医療

- ・産婦人科がない。
- ・小児病院が沢山あつて、選んだり、使い分けたりできるところがよい。

▼財源がない

- ・財源がない

▼子どもの数の減少

- ・子どもの数の減少



▼自然豊かな子育て、教育のPRが課題である

- ・自然豊かな子育てができることが知られていない。
- ・引っ越してきたとき、どのような教育施設があるのかわかりにくく、伝わってこなかった。

おおむね5年後の取り組みの方向性・具体的な取り組み

全体を通じた方向性：共働き世帯への支援が重要

■取り組みの方向性：子どもが利用しやすい公共施設づくり

▼具体的な取り組み：子ども向け施設施設の改善

- ・公共施設について、子どもと出かけやすい場所なのかどうか、何歳の子が行けるのか、どんな支援サービスがあるのかがわかるとよい。
- ・小学生が一人でも行きたくなるような図書館づくり。TUTAYA とラディアンが一体になった施設など。(代官山、武雄市など)
- ・温水プールの活用。温水プールの利用者が少なくてつづすくらいなら、子どもを増やすための魅力ある教育のために、例えば通年でプール教育できるようにしてはどうか。

▼具体的な取り組み：老人ホームと保育園の合築

- ・他の地域で行っているような、老人ホームと保育園が一緒になった施設

▼具体的な取り組み：ラディアンの改善

- ・ラディアンに授乳とおむつ替えの部屋をつくる。
- ・現在は、職員に言って空いている部屋を用意してくれるとのことだが、授乳やおむつ替えはすぐに必要なもので、待っているのでは利用しにくい。

■取り組みの方向性：子育て世帯向け情報発信

- ・引っ越してきた家族への案内をもっとより細かく具体的にわかりやすく適切な情報を発信する。

▼具体的な取り組み：子育て世帯向けの転入促進情報の発信

- ・引っ越してきた家族への案内をもっとより細かく具体的にわかりやすく適切な案内にする。
- ・町がつくるために、情報を利用する人の意見を集める場を設置する。
- ・子育て世帯の転入のためには、移住・住み替えコンシェルジュと保育コンシェルジュが一体となって情報提供する。(町から民間に委託)
- ・駅前の観光案内所にコンシェルジュを置く。

▼具体的な取り組み：子どもに関する情報の発信


- ・子育て情報を継続的に、子どもの年齢に合わせてタイムリーに提供する。子どもの健診時など活用する。
- ・小さい子がいるときは落ち着いて情報収集することも難しい。Facebook ページなどのSNSを活用する。
- ・NPO法人が運営している「きずなメール」を二宮町でも運営する。
- ・デパートみたいに、利用者の声に回答する掲示板を設置する。

■取り組みの方向性：子育て世帯転入するための空き家の活用

- ・子育て世代を呼ぶには、住む家が必要。新築や土地だけの供給は限られるので、空き家の積極的な利用が必要。空き家にしておかない対策が求められる。

▼具体的な取り組み：子ども向け施設施設の改善

- ・空き家バンク

- 
- ・二宮町の住み替え希望者向けの口コミ集め、提供
 - ・空き家の片付け支援や片付け資金提供
 - ・不動産事業者との情報共有

■ 取り組みの方向性：子育ての保護者をつなぐコミュニティづくり支援

- ・住民同士や様々な活動をしている方々との横のつながりや行政との協働が必要。集まればコミュニティができる。
- ・近くに親戚がいなくても、子どもを預けて母親が働きに行ける環境づくり

▼ 具体的な取り組み：子育ての保護者の横のつながりづくり

- ・第1子の0歳の親向けには集まる場があるが、第2子以降は参加できない。親に子育て経験があっても、子どもと同じ月齢の子と知り合う機会は貴重なので、すべての子どもに対しての横のつながりが必要である。

■ 取り組みの方向性：出産から教育まで切れ目ない子育て支援

- ・出産から教育までのサービスが町内で完結するようにする。

▼ 具体的な取り組み：不足している産婦人科と子ども用品店の誘致

- ・産婦人科を誘致するため、建物を町が立てて診療所を用意して、医者がいなくなっても別の人を呼んでこられるようにする。
- ・子ども用品を取り扱う店舗を誘致する。町が建てた建物の一部を店舗として家賃収入を得る。

■ 取り組みの方向性：子どもの遊び場づくり

- ・東大跡地に、住民の活動を取り入れて、常時人がいる遊び場、プレイパークを整備する。

▼ 具体的な取り組み：不足している産婦人科と子ども用品店の誘致

- ・行政と協働でつくる。
- ・シニアが活動を支援することで、若い保護者も活動に一步踏み出せるようにする。

■ 取り組みの方向性：預かり（一時）保育を充実させる

- ・新制度に移行する中で、預かり保育の充実の方法を提案し、考える。

▼ 具体的な取り組み：

- ・社会福祉協議会が行うファミリーサポートでは、保護者のニーズを満たせないで、それ以外の預かりが必要である。
- ・保護者や支援者の1対1の関係で、それぞれどちらかの自宅で預かるのでは、結局預けることができない。施設で預かってくれる場所をつくる。


■ 取り組みの方向性：小中学校の統廃合

▼ 具体的な取り組み：小中一貫校をつくる

- ・小中一貫校にしてはどうか。

▼ 具体的な取り組み：小学校の統廃合

- ・小学校を2校にして、スクールバスを導入する。
- ・百合ヶ丘保育園は狭いので人数が減っている一色小学校を保育園にしてはどうか。
- ・小学校と保育園を一緒にして地元の人たちが集まれるコミュニティスペースにしたい。自然が沢山でなるにはもったいない。



■ 取り組みの方向性：保育園の質の改善

▼ 具体的な取り組み：保育園の質の改善

- ・ 保育園と保護者の間をきちんと取り持つことが必要。園と対等に話し合えて、指導できる立場の団体が保護者の身近にあることが必要。
- ・ 待機児童の解消とともに、保育の質や魅力的な保育にする。

■ 取り組みの方向性：子育て世代の声を集めて実現する体制づくり

- ・ 行政が子育て世代が集まる場所に出向いて話を聞いて、できることを実現する体制づくり
- ・ 子育て世帯の声を反映できる行政として、意見を聞く場を増やす。

▼ 具体的な取り組み：子育て世代の声を集める工夫

- ・ 子育て世代の声を具体的に拾い上げる場が定期的にあるとよい。
- ・ 子育て世代同士で考える場を町が働きかけて用意する。
- ・ 給食を熱心に考える親は少ない。まかせっぱなしではなく、動く親の支援や場や子育て世代の意見を町が受け入れしている体制づくり

【部会名】 コミュニティ活動・地域内の助け合い

資源・課題

▼ 近所づきあいが希薄化し、地域での見守りが難しくなっている


- ・ ご近所間の助け合い意識が希薄化しているが、地域によって差がある。
- ・ 独居世帯が増えてきた。知らないうちに家族構成が変わっている場合があるが、個人情報の問題があり立ち入って聞くことができない。結果、見守りしづらい状況が生まれている。
- ・ 地域には助けを求めている人がいると思うが、その人々が何を求めているかわからない。
- ・ アパート居住者や単身者など、自治会に入らない人が増えている。それらの人々に対して連絡する手段がない。

▼ 地域の見守りや支援をする制度があるが十分機能していない

- ・ 地域の状況については、以前は民生委員が把握していた。しかし、民生委員に課せられる役割が増えていることや、地域の民生委員の認知度が下がっていることなどから、民生委員の本来の役割が機能していない。
- ・ 近所の子どもであっても挨拶がしづらい雰囲気がある。
- ・ 社協の活動は充実しているが、町民に情報が伝わらないために、その活動が十分活かされていない。

▼ 地域組織の活動に参加しづらい、参加してもらえないというミスマッチが起きている

- ・ 自治会などが行う行事や訓練などへの参加者が減っている。町民の意識が低下しているのではないか。
- ・ 若い世代（特に男性）が地域の活動に参加しない。地域活動というとシニア層ばかりに偏ってしまう。何とかできないか試行錯誤しているが解がみつからない。
- ・ 若い男性など仕事を持っている人や、子育て・介護などで忙しい人は地域活動に参加しづらい。
- ・ 地域活動の時間と自分の都合が合わず参加できない。
- ・ 地域組織に参加する人が固定化されており、新しい人が入りづらい雰囲気がある。
- ・ 地域組織の役員になると負担が大きい。また、役員になることが半分義務化されているため負担



に感じる。

- ・身近な付き合い以外、地域の人と交流がほとんど無い。
- ・地域組織の参加者は必ずしも顔見知りではないので、うまくやっていけるか不安がある。
- ・地域組織の役員の人選も難しい。やりたい人だけがやってもうまくいかない。いろいろな人が参加できる体制ができると良い。

▼地域活動の情報が得られにくい

- ・新しく転入した人は地域の情報を得にくい環境にある。自分から開いていかないと何も知らないまま生活することになる。
- ・地域活動の情報をどこで入手してよいかわからない。
- ・広報やいろいろな手段で広報されているが、これがベストという手段はない。

▼地域組織は運営の硬直化や連携不足などの問題がある

- ・地域組織の運営方法が今の時代にあっていない。
- ・役員になると負担が大きくなるが、どうせやるなら自由に提案をできる余地をつくってほしい。役割を任せる以上、一定の裁量を設けてもらえると活動にやりがいがある。
- ・自治会や社協、夢クラブ、PTA、子ども会など地域にはいくつもの組織があるが、組織間の連携が取れていない。特に子ども関係の組織間でつながりがない。

おおむね5年後の取り組みの方向性・具体的な取り組み

■取り組みの方向性：新しい地域交流拠点を活用したコミュニティの活性化


- ・今一度近所づきあいを見直し、地域の単身者や高齢者などを見守ることができる関係づくりが必要だ。
- ・地域にいつでも誰もが気軽に行ける場所があるとよい。予約制など時間が限定されると行きにくい。
- ・同じ世代はニーズが近い。同じ世代が交流できる新しいコミュニティづくりが必要だ。

▼具体的な取り組み：空き家を活用した地域の交流の場づくり

- ・地域に増えている空き家を地域の交流拠点として活用してはどうか。
- ・個人情報の問題もあり、空き家の持ち主と連絡を取ることは難しい。場合によっては遠方に住んでいることもある。持ち主への連絡は行政が行い、具体的な空き家の活用方法は地域と持ち主が直接行うなど、行政と地域が連携して取り組みを行うと良い。全てを行政に押しつけてはいけない。
- ・空き家が活用できるとよいが、実際は複雑な問題があり簡単にはいかない。理想だけでなく、活用による事業性とのバランスを考えるべきだ。
- ・空き家の所有者側からすると、空き家の維持管理にもお金がかかる。空き家を活用することで所有者側にもメリットがあるとよい。

▼具体的な取り組み：子育てに対する地域のサポート体制づくり

- ・子育て世代は時間的に地域活動への参加が難しいが、子育てに対する支援を求めている。
- ・親の活動を通して子どもも地域に参加する。まずは保護者が地域活動に参加しやすい環境づくりが必要だ。
- ・地域の人に保育園の送迎など支援してもらえるような関係ができるとよい。そうしたちょっとした支援があると、子育て世代が地域コミュニティに参加しやすくなる。
- ・今の子どもは野球や将棋など、昔の子どもがやっていたような遊びを知らない。保護者の有志で野球などを教えるケースもあるが、子どもに教えられるものには限界がある。
- ・地域にはスポーツや遊びに詳しい人や専門性を持った人たちがたくさんいる。そうした地域の人



たちが子どもの遊びに付き合ってもらい、いろいろ教えてもらえるとういと思う。

- ・もっと大人と子どもの交流ができる。
- ・高齢者で時間的に余裕のある人は声をかければ地域に出てきてくれると思う。子どもの活動を通じて地域活動への参加を促してはどうか。

▼具体的な取り組み：子どもが好きなだけ遊べる場づくり

- ・昔は地域に駄菓子屋があった。そこで放課後はよく集まって友達と時間をつぶしたものだ。今の子どもにとってそういう場所がない。
- ・子どもにとって、エンドレスに遊ぶ経験をすることは重要だ。好きなだけ遊ぶことができる環境づくりが必要ではないか。
- ・荒地でも子どもは遊ぶことができる。地域にある空き地を開放してもらい、子どもが自由に遊べるようにしてはどうか。

▼具体的な取り組み：広報手段を使ったコミュニティの意識醸成

- ・5時のチャイムにあわせて「家に帰ってお手伝いをしましょう」などの町民にあてたメッセージを入れると地域の意識づくりに使えるのではないか。
- ・防災無線や挨拶運動をはじめとした様々な広報手段を使い、子どもたちをみんなで育てる雰囲気づくりができるとよい。

■取り組みの方向性：地域組織の柔軟な運営

- ・地域組織に長年携わってきた人には、そのやり方があると思うが、新しい人が参加しやすくするために、組織の運営に関して自由に任せられる部分を作るなど、柔軟に対応できるようにしてはどうか。

▼具体的な取り組み：普段から関われる環境づくり

- ・いつでもいけて、いつでも関われるイベントや活動があると良い。

▼具体的な取り組み：きっかけづくり

- ・地域活動に参加しても、ユニフォームなどがあると気後れしてしまう。人によって気になる部分は違うと思うが、いろいろな人が参加しやすいように、地域活動は少しラフなくらいがよいのではないか。形にとらわれずに気軽に入れる形であればもっと参加しやすくなると思う。

▼具体的な取り組み：組織を時限的にして、定期的に組織を一新する


- ・地域組織の活動が停滞しているのであれば、3年くらいで組織を解散させ、また新たに設立することを繰り返してはどうか。組織は活動期間が長くなればなるほど固定化される。
- ・保育園のPTAなど1年で交代するような組織の場合、やってみて課題が見つかることが多い。次の役員にその課題を申し送り、次の人に取り組んでもらえるような仕組みができると良い。

【部会名】しごと場づくり

資源・課題

▼商業・業務機能の活性化

- ・近隣に大～中規模の会社や、本社機能を持った会社が少ない。
- ・空き家や空地が多く存在するため、企業誘致に有効活用する。

- 
- ・駅前付近への店舗の集積を図るなど、商業の拠点づくりが必要。
 - ・共同販売所の設置が必要。

▼新たな働く場づくり

- ・二宮町独自の特色ある産業が少ない。
- ・女性の子育て前のキャリアを活かすなど、多様な人々が働くことのできる新たな働き場の創造が必要。

▼求人情報などの提供機能の充実

- ・ハローワークのような求人情報が集まる場や、身近な町内の求人情報誌・サイトなどが不足している。
- ・個人事業主の創業や、事業者同士の活動を支援する体制が整っていない。

▼既成概念にとらわれない町民の意識改革

- ・町民の意識改革に努め、新たな住民や新たな考え方を受け入れる土壌づくりが必要。
- ・ボランティアに対しても報酬が支払われるような意識の浸透が必要。
- ・新規の取り組みなどの足を引っ張らない、町民や役所からの積極的な支援が必要。

▼ベッドタウンとしての機能強化

- ・ベッドタウンとしての機能を強化し、企業の寮の立地への特化や、持ち家を二宮に建ててもらうことを推進する。

おおむね5年後の取り組みの方向性・具体的な取り組み

■取り組みの方向性：多様な事業者の誘致とともに、既存の資源を活用する

- ・町内に多く存在する空き家・空地・空き店舗などを活用した多様な事業者の誘致を進める。
- ・工業団地の再開発など、企業の誘致に向けた町・県の積極的な行動を促す。
- ・企業に対する空地セールスの強化を不動産業者に促す。
- ・空き家・空き店舗を活用し、賃料を抑えるなど、若手事業者の誘致も積極的に進める。
- ・周辺住民とのコミュニケーションを踏まえた空地の土地活用を進める。
- ・町民から行政に対する要望だけでなく、未来志向での資源の活用に取り組む。

▼具体的な取り組み：企業に対する情報提供

- ・立地・条件・メリット等、企業に対する二宮町の情報提供手段を強化する。

▼具体的な取り組み：先進事例の調査

- ・企業誘致を行った先進事例の情報収集に努める。
- ・二宮で起業し成功している事例の情報収集・開示を行う。

▼具体的な取り組み：既存の事業者を大切に

- ・大切にしていきたい事業者を利用する。


■取り組みの方向性：仕事に関する情報を得やすい環境を整備する

- ・ハローワーク、身近な町内の求人情報誌・サイトなどによる、求人情報の提供機能を強化する。
- ・テーマ性を持った関係者同士の情報交換が行える場をつくる。

▼具体的な取り組み：きめ細かな求人情報の提供

- ・二宮町に特化したハローワークを整備し、コーディネーターを配置する。
- ・二宮町の求人データベースのシステムを構築する。

▼具体的な取り組み：求人のコーディネート機能の強化

- 
- ・季節ごとに発生する求人や、女性・高齢者など日中の労働に対するコーディネート機能を充実させる。

■取り組みの方向性：新しいもの・ことに対する町民の意識を高める

- ・新たな住民や新たな考え方を受け入れられる土壌をつくる。
- ・具体的な問題・課題による、町民意識（町の存続への危機感）の共有を図る。

▼具体的な取り組み：町民の仕事に対するスキルアップ支援

- ・大人のためのスキルアップ講座（コミュニケーション、接客、営業、…）を開催する。

【部会名】まちの魅力づくり①

資源・課題

▼資源を活かした観光

- ・観光客は現在年間 100 万人来ている。これらの観光客にもっとアピールが必要だ。
- ・磨けば光る資源があるはずだ。神社などの歴史を PR すべきだ。
- ・吾妻山公園は駅から近いが駐車場の遠い。駐車場の整備を行い知名度を上げるべきだ。

▼里山を活かす

- ・自然が多いが、空地の管理が適切になされていない。子供が遊べる場所ができると良い。
- ・里山で観光立町の可能性を追求してはどうか。

▼外部とのアクセス向上

- ・不便で住みにくい、交通の便が悪い。
- ・JR のアクティが止まれば交通の便がさらに良くなる。

▼町内のアクセスの向上

- ・町内で公共交通の不便な場所がある。
- ・公共交通を維持するために、公共交通を普段から町民が利用し、便数を確保する必要がある。

▼教育の質の向上

- ・中学生が挨拶してくれるのは良い点だ。
- ・教育レベルを県内ナンバー 1 にすれば、町の魅力が増すのではないか。

▼駅前商店街の魅力をアップ

- ・駅前商店街はチェーン店がないのが良い点だが、閑散としている。
- ・駅前商店街では買い物ができない。
- ・駅前商店街には、ど田舎な雰囲気がある。
- ・閉店した店舗は雰囲気が悪い。

▼転入者が増えると良い

- ・気候が良く、住みやすい。
- ・空室が多い。
- ・ファミリー層を呼び込み、町の平均年齢を 5 歳下げたい。

▼健康づくりでまちの魅力向上

- ・高齢者の数が多いので、健康づくりで健康な高齢者が多くなり、それが魅力となると良い。
- ・総合病院が町内にないのが不安。



▼景観の向上

- ・地域の清掃等をさらに充実させ、美観を損ねないようにするべきだ。

▼行政の改革

- ・日本一安い税金の町（住民税、介護保険など）として魅力を PR できるような改革をすべき。
- ・3 町合併（中井、大井、二宮）で新しい市を誕生させるべきだ。

おおむね 5 年後の取り組みの方向性・具体的な取り組み

■取り組みの方向性：町の PR

- ・町のあらゆる情報を町外にアピールすることで、二宮町への注目を高め、転入者の増加に繋がるようにしてはどうか。

▼具体的な取り組み：観光資源を PR

- ・東京五輪に向けて英語表示などを整備する。
- ・まちの観光資源をインターネットで公開できるよう、HP を充実させてはどうか。
- ・観光カレンダーを作ってはどうか。
- ・観光ルートを整備し、ツアーバスで回れるようにしてはどうか。

▼具体的な取り組み：観光ルートマップの作成

- ・観光マップをリニューアルして、より町の魅力を伝えられるようにしてはどうか。
- ・観光客が来るよう、様々な団体や業者等とネットワークを形成し、観光ルートを提案してはどうか。

▼具体的な取り組み：首都圏のサラリーマンをターゲットにした生活情報の PR

- ・首都圏のサラリーマンに田舎暮らしの良さや、通勤アクセスの実態を伝える。
- ・周辺市町の大型店舗等の施設情報を一緒に伝え、便利な暮らしを PR
- ・戸建て住宅が三千万円で手に入れられることを PR

▼具体的な取り組み：PR 手法の改善

- ・町の良さのアピールは、例えば通勤電車で座れる割合〇%等、数字を具体的にに入れて伝えるべきだ。
- ・町独自の PR だけではなく、県や国、民間など様々な媒体を利用すべきだ。

▼具体的な取り組み：PR の内容

- ・ほどよい田舎が良い
- ・二宮からだと座って通勤できる
- ・安く生活できる
- ・エアコン無しで生活できる

■取り組みの方向性：教養のあるまち

- ・町民の文化度を高め、教養のある町民が多いことを魅力とする。

▼具体的な取り組み：里山や自然体験

- ・里山の体験学習で、畑作の楽しさを伝えるとともに、里山の整備にもつなげる。

▼具体的な取り組み：町民のための塾の充実

- ・二宮塾の開放
- ・ワンコイン講座で健康や安全、教養等の講座を開いてはどうか。
- ・地元の有識者の知識を活用できないか。



▼具体的な取り組み：学校教育や子供に対する教育の充実

- ・有名な幼稚園を誘致する。
- ・子供向けスポーツクラブの充実（サッカーや水泳等）
- ・学校の枠にとられない子供向けの教育。
- ・私立学校の誘致。
- ・留学（バカロレア）の支援

■その他のアイデア

▼具体的な取り組み：お店のスタートアップ支援

- ・二宮でお店を経営したい人のバックアップをする。

▼具体的な取り組み：朝晩の交通環境の改善

- ・働くファミリーに優しい町として、朝夕のラッシュ時のアクセス改善。
- ・駅前ロータリーの改善。

▼具体的な取り組み：町職員の質の向上

- ・町民、議員、役場職員の意識改革が必要だ。
- ・行政改革のため、ボランティア精神の向上が必要。

▼具体的な取り組み：地域特性に合った整備や保全

- ・自然を守るため、調整区域の範囲を見なおしてはどうか。
- ・商業地域は再整備をする必要があるのではないか。

【部会名】まちの魅力づくり②

資源・課題

▼自然が豊か


- ・海と山が近く、自然が豊かで静かな環境である
- ・吾妻山の花の丘公園の自然を活かしていない
- ・気候が温暖で住みやすい（夏が涼しく、冬が温かい）
- ・「みかん」の物語性を活かしていない
- ・東大二宮果樹園跡地を活かしていない
- ・子どもたちが自然に親しんでいない

▼町民力は低いが魅力を住民が知らない現状がある

- ・二宮町の魅力を住民が知らない
- ・神社があるため、古い体質がまだある
- ・資源がいろいろあるのに活かそうとしていない
- ・自治会加入率の低下している
- ・近所の顔が見える関係にあり、町民同士の挨拶がある
- ・高齢者、空き家、福祉などの対策が必要である
- ・小中学校に給食がある

▼文化がある

- ・吾妻山の愛の物語がある

- 
- ・近代の和風建築の宝庫だったのに消失している
 - ・まちの歴史などの物語性を活かしていない
 - ・生活文化が高い
 - ・サークル活動が盛ん
 - ・蔵書を持っている人が多い

▼買い物（車だと便利だが、徒歩やバスでは不便）

- ・（商店街）閉店している店が多い
- ・商圈が広いはずなのに活かしていない
- ・車だと買い物しやすいが、車利用者以外は買物がしづらい

▼交通の便が良い

- ・JR、小田原、西湘バイパスの交通が良い
- ・駅前に駐車場が少ない（無い）
- ・知名度が低く、通過交通になっている

おおむね5年後の取り組みの方向性・具体的な取り組み

■取り組みの方向性：町と住民が一体となって様々な事業を進めていく

- ・住民と行政を分けることなく、活かすあえることは活かすあっていく
- ・住民の能力やモチベーションが高いので住民主導で事業を行える方法や仕組みを作る
- ・住民と行政の中間に位置するような組織を作ること検討する

▼具体的な取り組み：住民の力を知り、活用する

- ・住民が行政の取り組む事業にもっと参加出来る機会を作り、住民の持っている力を利用する
- ・町民のまちづくりシンクタンク（NPO）を作り、行政がサポートできるような仕組みを作る

▼具体的な取り組み：町や住民が各自発信している情報を取りまとめる

- ・住民が作っている情報（情報誌、チラシ、facebook等）を集約する場所を作る
- ・まちあるきができるように、街中に分かりやすいサインを作る
- ・各お店が情報を提供し、まちを案内できるような、コンシェルジュ役になれるようになる

▼具体的な取り組み：住民や観光客が楽しめるプログラムを作成する

- ・町の持っている物語性や自然をPRできるように、まちあるき・体験学習プログラムを作成する
- ・町民同士が情報を交換できるような場づくりをし、町民もまちを楽しむ事業を行う

▼具体的な取り組み：見過ごしてしまいがちな自然環境を見直し、住民主体で有効活用する

- ・住民の募金を通じて植樹活動を行う
- ・町の取り組みを行う

▼具体的な取り組み：観光客が訪れたいくなるような観光の目玉を作る

- ・電車が好きな人が集まるように、軽便鉄道を復活させる

▼具体的な取り組み：住民や移住者に向け、町の資源を活用して、起業できるような基盤を作る

- ・町で起業をしたいと考えている人向けに（特に移住者）に向け、起業セミナーを開催する